

# ESD レポート

Education for Sustainable Development

# vol. 18

## 2009 春

2009年3月27日発行

NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

ESDとは「持続可能な開発のための教育=Education for Sustainable Development」の略。社会、環境、経済、文化の視点から、人類が直面するさまざまな課題に取り組み、公正で豊かな未来をつくる「持続可能な開発」—— それを実現する力を、世界各地に生きる私たち一人ひとりが学び育むことをめざして、「国連持続可能な開発のための教育の10年(ESDの10年)」が、2005年からスタートしています。



シリーズ 学びの場をデザインする



## 地球規模の課題へ着目し、参加者が未来を描く「戦争展」

「平和のための埼玉の戦争展」実行委員会

「平和のための埼玉の戦争展」(以下「戦争展」)は昨年2008年で25回目を迎えました。当初から学習と研究を欠かさずに、そのときどきの課題と正面から向きあう方向性を追求してきました。この25回の積み重ねは大きな意味や成果もありましたが、一方で「反～」というメッセージだけでは、平和な世界づくりへの、参観者の主体的な行動につながりづらいという課題もありました。

### キーワード

戦争展  
平和運動、平和教育  
平和学校、ピースカレッジ  
戦争体験から未来創造型の学びへ

そこから一歩踏み出した昨年の「戦争展」は、「この子たちの未来のために世界を変える人になろう」をテーマに開催しました。地球温暖化のような地球規模での問題の拡大と、それに向きあう平和研究・平和運動・平和教育の進展を受けて、積極的に「私たちに何ができるのか」を学びあうことが必要だと考えたからです。



**できることを学びあう場への転換**

従来、平和教育の分野では、空襲体験などを学ぶことが主流で、「過去の戦争から戦争の悲惨さを学び、平和の尊さを知る」という点では貴重な学びではありませんでしたが、これから「平和な世界をつくっていく」ために、私たちに何ができるのかなどが明らかではなかったように思います。また、戦争や平和というテーマは大きく、自分たちの手には負えないと感じている人も多く、「平和な世界になってほしい」「戦争はしないでほしい」といった誰かにお願いするような感想が目立つことも、課題だと考えていました。そこで昨年の「戦争展」は、平和な世界をつくるために「私たちができることを学びあう場」を企画の中心としました。

まず、いま私たちが置かれている環境・経済・社会の状況は「平和でない＝持続可能ではない」ととらえることから始めました。そして、その根底にあるグローバルな新自由主義経済と軍事優先の論理とシステムを、「平和で、持続可能な」論理と社会システムへ転換することをコンセプトの基本にすえました。

その結果、「いまの世界と向き合う」のコーナーでは、『地球データマップ』を活用し、貧困、格差、温暖化などが私たちの暮らしと世界がどうつながっているのかをクイズやオリジナルのマンガを使って示しました。「世界のしくみを知る」のコーナーでは、いわゆる先進国と第3世界の国々との間の富の偏在や紛争の起きるしくみを、同じ縮尺の世界地図に図示して並べました。また、従来から力を入れてきた「過去の戦争から学ぶ」についても、今回のコンセプトから光を当て直し、かつて1930年代の経済的ゆきづまりを武力によって打開しようとする選択肢をとったことがアジアで2000万人、日本でも310万人もの被害を出した大きな戦争につながったことを示し、現在との関わりを認識できるようにしました。

会場を訪れた人たちからは、「ゆがんだ世界とは思っていたが、まさかこれほどまでとは思わなかった」「いま、世界がどのようになっているのか、知らないことばかりだ」「私たちの生活の一つひとつと世界がいかに結びついているのか考えさせられた」などといった声が数多く聞かれました。

**参加型の企画で、小さな行動を生みだしたい**

さらに、「世界を変える人になろう」というテーマには、平和システムへの転換を「誰か任せ」にするのではなく、自分にもこの問題に関わっていくことができるという確信を、とりわけ子ども・若者のなかに育てたい、という思いが込められています。

平和で持続可能な世界をつくっていくエンパワメントができるような展示の内容と方法を「参加型の企画」としていろいろ工夫しました。クイズや模型を使った「いまの世界と向き合う」のコーナーや、今すぐにはじめられる平和への行動を紹介した「君も今日からはじめよう」のコーナーへの反響は大きなものがありました。「平和のために何ができるか」を問うたアンケートには、「(フードマイレージの大きい)ハンバーガーは食べない」「できるところからフェアトレードに挑戦してみようと思います」など、これまでになく「お願い」型から小さなことでもはじめてみる「行動」型の意見が目立ちました。

また昨年は、「ピース・ライブ」、「若ものピース・トーク」など、参観者の半数以上をしめる10～20代の若者を意識し、若いスタッフが担当する参加型のイベントをいくつも設けました。

**若者たちの間で広がりつながる「学びあいの場」**

この「戦争展」の企画準備においては、中・高生や大学生のボランティアを募り、学び、自己表現する場、企画・制作の責任を担う機会を積極的に用意しました。この方法論は、「戦争展」の最大の特徴・原動力であり、その過程にも多くの学びがあります。

とくに「いまの世界と向き合う」コーナーや「君も今日からはじめよう」コーナーは大学生が中心になって取り組みました。自分が毎日食べているハンバーガーが世界のゆがみと結びついていることを知った驚きや、安価に日本で手に入れられる食材の裏で生産者にはほんの数%のお金しか支払われていないことを発見し、自分たちには何ができるだろうと来る日も来る日も学んでは語り、語っては学んでのくり返しでした。



工夫しながら準備を進めるボランティアスタッフたち

こうした取り組みから、若者たちが日常的に寄りあい、何でも話せ、学びあえる場として「平和の学び場・コラボ21」という常設の平和学校を設けました。「戦争展」の到達点を学ぶことを中心としたピースカレッジの開催をはじめ、いまでは、いくつかの大学の学生たちをパッチワークのようにつなぎながら、若ものたちがコミュニティカフェづくりに取り組み始めています。

これからも「平和は、自分たちの手でつくり出すことができ、楽しく手ごたえのある取り組み」ということを多くの人たちと分かちあう場ができるように、多様な世代の人たちといっしょに取り組んでいきたいと思えます。(報告：「平和のための埼玉の戦争展」実行委員会 岡寄聡介)

**「平和のための埼玉の戦争展」実行委員会**

〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂 2-3-10  
黒澤ビル 3階 日本機関紙協会埼玉県本部気付  
電話：048-825-7535  
URL：http://www.kikanshi-nw.or.jp/peace/  
E-mail：peaceexhibition@yahoo.co.jp

**戦争展の企画に関わって**

コーナーを担当してから勉強の毎日でした。日本や世界で起きていることについて、あまりに知らないことが多くて驚きの連続でした。みんなと話しあいながらコーナーづくりをすすめるなかで、自分たちにもできることがあるなど実感はじめています。いまは、「戦争展」や「コラボ21」にかかわっている人だけでなく、自分のつながりで友人などにも少しずつ話をし、つながりを広げていくことが大切だと思っています。(スタッフのS・Sさん、20代女性)





# ESDを広げ、すすめるために

このコーナーでは、ESD-Jが進める主要プロジェクトやその成果を紹介し、ESD-Jが何をめざし、何に取り組んでいるのかを紹介しています。4回目は、地域 & 政策提言 PT の「環境省 ESD 促進事業全国事務局」と、政策提言 PT の「ESD-J 14の政策提言」の二つをご紹介します。

## 地域&政策提言プロジェクトチーム

### ESD モデルづくりを支援し、地域の ESD 推進のヒントを探る 環境省ESD促進事業 全国事務局

環境省は 2006 年度より、地域の ESD を推進するための施策として、「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」促進事業を実施、ESD-J はその全国事務局を受託し、3 年間、モデルづくりの支援とその普及業務を担ってきました。06 年と 07 年に全国から公募を行ない、あわせて 14 地域を採択、それぞれの地域は多様な主体が参加する ESD 協議会をつくり、ESD モデルづくりに取り組んでいます。

全国事務局の役割は、以下の 3 点です。

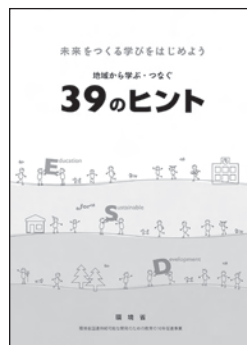
- ① 地域の取組みを情報提供や講師派遣、経験交流の場づくりなどで支援すること
- ② 14 地域それぞれの取組みから、ESD の内容や仕組み、ESD 推進のためのヒントを学びとり、それを広く普及すること
- ③ そして、それらの経験から、地域の ESD を支援するために国ができることを提案すること

モデル地域の支援センター的な役割を 3 年間担うなかで見えてきたのは、優良事例や ESD 推進のためのノウハウを共有する場をつくり情報発信することは、ESD を進めていく上で有効であり、今後も同様の役割を全国レベルや地域ブロックレベルで果たしていく必要があるということです。また、地域の取組みが継続的になるかどうかは、その核となる人材を安定的な立場で雇用できるかどうか非常に大きいということです。この 3 年間の経験は、ESD-J の「14 の提言」の検討にも大きく活かされました。

そしてもう一つの成果は、冊子『未来をつくる学びをはじめよう 地域から学ぶ・つなぐ 39 のヒント』です。この冊子では、14 地域の実践から学びとった ESD に取り組む際のヒントを以下の 6 つのカテゴリーに分け、紹介しています。

1. 学びのプログラムづくりのためのヒント
2. 学びあう関係づくりのヒント
3. 新たな仲間を増やすヒント
4. 相乗効果をうみだすヒント
5. 知恵と力を共有する仕組みをつくるヒント
6. 体制を維持するための基盤つくるヒント

3 月末には完成、地方環境パートナーシップオフィスや環境学習拠点などで配布される予定です。また PDF データがウェブに公開される予定です。どうぞお楽しみに！



## 政策提言プロジェクトチーム

### 「学びから未来を創造する社会へ ESD-J 14の政策提言」を発表

ESD-J は、ESD がさらに全国各地に広がるために、14 の政策をまとめました。これらは大きく 4 つの方策から成っています。

第 1 の方策は、「ESD の理解を広げ、成果を可視化する」です。多くの人にとってもらうことと、各地で行なわれているさまざまな取組みを可視化することを目指します。政策は、「ESD の普及に向けた広報戦略の作成・実施」、「ESD の可視化と普及のための ESD 登録事業」、「公的なスペースにおける ESD 情報コーナーの設置」の 3 つを提言しています。

第 2 の方策は、「全国規模で ESD 実践の体制としくみをつくる」です。ESD の推進には、省庁横断・官民連携を促す体制づくりが欠かせません。政策は、「ESD 全国センターの設立」、「ESD 全国円卓会議の更なる充実・強化」、「学校教育分野における ESD の強化」、「大学における ESD 活動の強化」、「企業における ESD の推進」の 5 つを提言しています。

第 3 の方策は、「地域の ESD 実践力を強化する」です。地域で ESD を推進し続けていくには、組織的な取組み・支援体制（仕組み）が必要です。政策は、「地域における ESD センター機能の構築」、「地域における ESD 円卓会議の設置」、「市町村における ESD を推進する学習コーディネーターの配置および学習コーディネーター協議会（プラットフォーム）の設置」の 3 つを提言しています。

第 4 の方策は、「アジア的 ESD を世界へ発信し、世界の ESD を牽引する」です。日本は、国連 ESD の 10 年の提唱国として、率先して ESD に取り組み、国際社会と協力しながら世界の ESD を牽引する責任があります。政策は、「国連 ESD の 10 年総括会議（2014 年）の日本開催」、「生物多様性条約第 10 回締約国会議に向けた ESD の貢献」、「アジアを中心とする地域における ESD 関連市民組織のネットワーク化」の 3 つを提言しています。

この提言は、2008 年度に実施した、全国 9 箇所での地域ミーティングや、会員メーリングリストやウェブサイト上での意見募集などを通じて、ESD-J 政策提言プロジェクトとしてまとめたものです。提言に関する詳細はウェブサイトでも公開していますのでぜひご覧ください。

ESD-J は、ESD の 10 年の後半に向けて、これら 14 の政策の実現に向けて、すべてのステークホルダーの皆さんと連携を図り、これまで以上に取り組んでいきます。そのためには皆さんの積極的な参画が欠かせません、どうぞよろしくお願ひします。

★ ESD-J の実施事業に関しては、ESD-J のウェブサイト「ESD-J の活動」のコーナーで詳しく紹介しています。



# 全国のESD関係者が集い、ESDをめぐる熱い議論が交わされた2日間

— ESD-J 全国ミーティング 2009 開催報告 —



2月21日～22日の2日間、ESD-J 全国ミーティング 2009 を開催し、ESD をめぐる熱い議論が交わされました。全国各地域でESD に取り組む、またはESD に関心のある、NGO/NPO、大学関係者、学校教員、自治体職員、企業のCSR 担当者など、2日間で、のべ200人以上に参加いただきました。

1日目は、マルチステークホルダーセッションと題して、政府、自治体、企業、地域の

ESD に関する取組みや関わり方を発表いただくとともに、ESD 推進に向けて各ステークホルダーがどのような役割を担えばよいのか、またESD-J が提言した「ESD 推進のための14の提言」への意見交換が行なわれました。その後、ESD-J の成果報告、会員による事例発表やパネルセッションなど、国際、政府、地域それぞれで取り組んでいる“ESD”を1日かけて共有しました。

2日目はテーマ別研究会として、「学校からはじめるESD」「生涯学習からはじめるESD」「農山村を元気にするESD」「グローバルな課題につなげるESD」の4つのテーマに分かれ、地域の取組みから、ESD を実践する上で大切なことを参加者との対話を通じて学びあいました。最後の全体会は、「ESD 学びあいカフェ」と題してワールドカフェ方式で「学びあいを豊かにするために」をテーマに全体対話をしました。



2日目のESD 学びあいカフェ。100名を超えるワールドカフェは社観。「学びあいを豊かにするために」をテーマに、多様な立場で対話をくり返した。

2日間を通じて、ESD を進めることが持続可能な社会へ近づくことになるのだという思いが交差し、ESD への思いや姿勢がフロアに満ちた2日間でした。

## 私たちがESD-Jに入ったわけ（連携交流団体）

### 皆さんの国際協力活動をサポートします

独立行政法人国際協力機構 広尾センター（JICA 地球ひろば）

JICA 地球ひろばは、市民の方々に国際協力に参画していただくための拠点として、日比谷線広尾駅近くにあり。途上国の現状や課題等を体験型で知っていただく「体験ゾーン」、NGO 等の方々がセミナーやワークショップを開催・参加できる「交流ゾーン」、途上国の日常的な食事が食べられる「カフェ・フロンティア」などから構成されており、年間約10万人が来訪し、活発に意見交換、活動をしています。また、NGO や大学、自治体等のみならず、民間企業のCSR 活動における国際協力活動を側面支援すること、民間企業とNGO との橋渡しについても取組みを進めています。

ESD-J 会員との情報交換を通じて、持続可能な開発のための教育の現状やあり方をともに考え、地球ひろばで行なわれるセミナーなどで情報発信してゆきたいと考えています。



開発途上国の食料問題を取り上げた展示

※2008年度より、団体会員として加入できない国連関連組織などを中心に「連携交流団体」として呼びかけ、現在4組織に加盟いただいています。今後も、各組織と情報交流や事業連携などを進められればと思っています。



ここ蓼科や八ヶ岳には縄文の遺跡がたくさんあります。縄文人は、決して貧しく苦しい生活ではなく、鹿を追い、自然と共生し、心豊かで平和な生活を送っていたようです。そのような場所で今、会員がセルフビルドでエコビレッジをつくり、森林技術をはじめ農山村に伝わる生活文化・技術を学び、持続可能な生き方を探る、森林エコビレッジづくりを始めようとしています。（NPO 自然文化国際交流協会 森田千史）

## ESD-J だより

2008年12月～2009年2月の活動報告

- 12月1日 PTリーダー会議
- 12月2～5日 ESD 国際フォーラム 出席
- 12月2日 経済同友会 NPO メッセ 出席
- 12月4日 安城市 ESD 職員研修〈プロジェクトを企画する〉
- 12月5日 地域ワークショップ in 仙台
- 12月5日 ヒューライツ大阪「アジアと日本のつながりを考える国際セミナー」講演
- 12月6日 地域ワークショップ in 大阪
- 12月7日 第3回やんばる3村 ESD 人材育成〈環境保全と地域活性化〉
- 12月11日 エコプロダクツ展日能研ブース講師派遣
- 12月16日 民主党環境文部科学合同部会 出席
- 12月20日 第2回 ESD-J 理事会
- 12月22日 ESD レポート 17号発行
- 12月26日 富山工業高等専門学校 講師派遣
- 1月17日 第4回やんばる3村 ESD 人材育成〈都市と農村交流プロジェクトづくり〉
- 1月19日 ESD 円卓会議 出席
- 1月21日 ESD レポート 18号編集会議
- 1月24日 東京学芸大学ミニシンポジウム「ESD 論戦」講演
- 1月29日 第5回 ESD カフェ〈社会教育主事の魔法のこぼれ〉
- 1月29日 第11回 ESD に関する関係機関情報交換会議 出席
- 1月31日～2月1日 環境 NGO と市民の集い 出席
- 2月2日 環境省 ESD 促進事業：経験交流ミーティング
- 2月3日 環境省 ESD 促進事業：地域担当者会議
- 2月3日 安城市 ESD 職員研修〈フォロー研修〉
- 2月3日 JICA 地域別研修 講師派遣
- 2月4日 茨城大学教育学部「地域資源フィールドスタディセミナー」講師派遣
- 2月5日 静岡県市町教育委員会 人権教育担当者研修 実施
- 2月14日 第4回やんばる3村 ESD 人材育成〈地域の未来を描こう〉
- 2月17日 環境省 ESD 促進事業：検討委員会
- 2月21～22日 ESD-J 全国ミーティング
- 2月28日 関東ESD推進フォーラム in いたばし 出席

### 特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 (ESD-J)

http://www.esd-j.org/ e-mail: admin@esd-j.org

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F  
TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554

● 会員募集中：正会員（10,000円）、準会員（3,000円）詳しくはHPをご覧ください ●



発行：NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 編集：ESD-J 情報共有プロジェクトチーム レイアウト：河村 久美



この印刷物は、適切に管理された森林の認証木材から作られた紙と、フードマイレージに配慮し、米ぬか油を使用したライスインキで印刷しています。